

姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2026 年 6 月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出典:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI 値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数 4、「悪化」事業所数 4 の場合

好転:20%(2/10)、悪化(4/10):-40% 差引:-20% が DI 値となる

産業全体の景気動向の推移

<概要>

2026 年 4～6 月期の全産業の DI は売上額がマイナス 10.2(前期比 2.3 ポイント上昇)と改善したもの、採算はマイナス 28.8(同 4.5 ポイント低下)、資金繰りはマイナス 15.4(同 0.9 ポイント低下)と前回より悪化した。また、今期の主要 3DI を 1 年前の同時期と比較すると、売上額は 0.6 ポイント、採算は 4.1 ポイント、資金繰りは 1.5 ポイントと、いずれも下回る結果となった。

当期の業況を製造業、建設業、小売業、サービス業の 4 分野でみると、製造業、小売業、サービス業の一部では DI に改善がみられたものの、建設業の主要 3DI は 2 期連続で悪化した。

経営上の問題点としては、引き続き材料価格や仕入れ単価を 1 番の問題としてあげていることに変わりはないが、今回は全ての分野でその指摘割合が拡大している。製造業「原材料価格の上昇」40.9%、建設業「材料価格の上昇」44.5%、小売業「仕入単価の上昇」35.7%、サービス業「材料等仕入単価の上昇」39.5%と、いずれもその割合が大きく増加している。加えて、製造業では「原材料の不足」、建設業は「材料の入手難」など、材料自体の入手に不安を感じる割合が増えていることも特徴的である。

今回の調査結果では、中小企業全体の景況が依然として不安定な状況にあることを示している。最新の日銀短観(2026 年 6 月)の調査結果をみると、中小企業の業況判断が「先行き」について製造業、非製造業ともに悪化が見込まれている他、地政学リスクの長期化、金利上昇への警戒感なども加わり、中小企業の見通しは引き続き慎重なものになっている。

<地域別>

【全国】

2026 年 4～6 月期の全産業の業況判断 DI は、▲25.5(前期差 4.3pt 増)となり、改善した。

製造業の業況判断 DI は、▲25.3(前期差 1.1pt 増)となり、前期からわずかに改善した。

建設業の業況判断 DI は、▲34.0(前期差 11.2pt 増)となり、前期から大幅に改善した。

商業の業況判断 DI は、▲25.1(前期差 2.9pt 増)となり、前期からわずかに改善した。

サービス業の業況判断 DI は、▲17.7(前期差 2.0pt 増)となり、前期からわずかに改善した。

産業全体の景況としては、売上額 DI がわずかに低下、採算・業績 DI は小幅に改善、資金繰り DI はわずかに改善した。エネルギー価格や原材料価格の高止まりは続いているものの、一時より緩和しつつあるとの声が見られた。また、仕入価格は依然として高水準で推移しており、先行きを慎重にみる声が多い。

【兵庫県】

企業の業況判断は、足もとでは改善しているが、先行きは慎重な見方となっている。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は、増加計画にある。

生産は、横ばい圏内で推移している。

雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。

【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲43.8 で、全国 DI(▲25.5)、兵庫県 DI(▲22.0)と比較すると最も低い。

売上高は、▲31.3 で、全国 DI(▲3.9)、兵庫県 DI(▲9.9)と比較すると最も低い。

採算状況は、▲58.3 で、全国 DI(▲26.9)、兵庫県 DI(▲31.7)と比較すると最も低い。

資金繰りは、▲41.7 で、全国 DI(▲22.4)・兵庫県 DI(▲14.4)と比較すると最も低い。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

(サービス業)

・生活用品等、各種値上げの影響により美容関係は後回しにされる傾向があるため、メディア等で値上げ報道があると、それを受け客足が減少する。(美容室)

・酷暑および物価高が重なり、高齢の年金受給者は外出や出費を控えている印象がある。(施術業)

(商業 小売、卸売等)

・中古車市場は相変わらず仕入が難しく、価格も高止まりしている。(自動車販売)

・原材料等、仕入値、全てが上がっており、利益が上がらないのでストックを置く余裕がない。客足が減っているため、価格転嫁も難しい状況である。(飲食店、小売店)

(建設業)

・燃料価格の高騰が大きく、価格転嫁も出来ていない為、資金繰りが厳しい。(建設業)

・リノベの需要が大きいですが、人手不足の問題により機会損失している。(建設業)

・人口減少により、新築の受注が減少している。(建設業)

(製造業)

・送料込みだった仕入れ値が、配送費の高騰により別途送料が必要になった。(製造業)

・最低賃金の引き上げにより、所得に制限のある従業員は働ける時間が減るため、人手不足が加速し、事業主や家族従業員の負担が大きくなっている。(製造業)

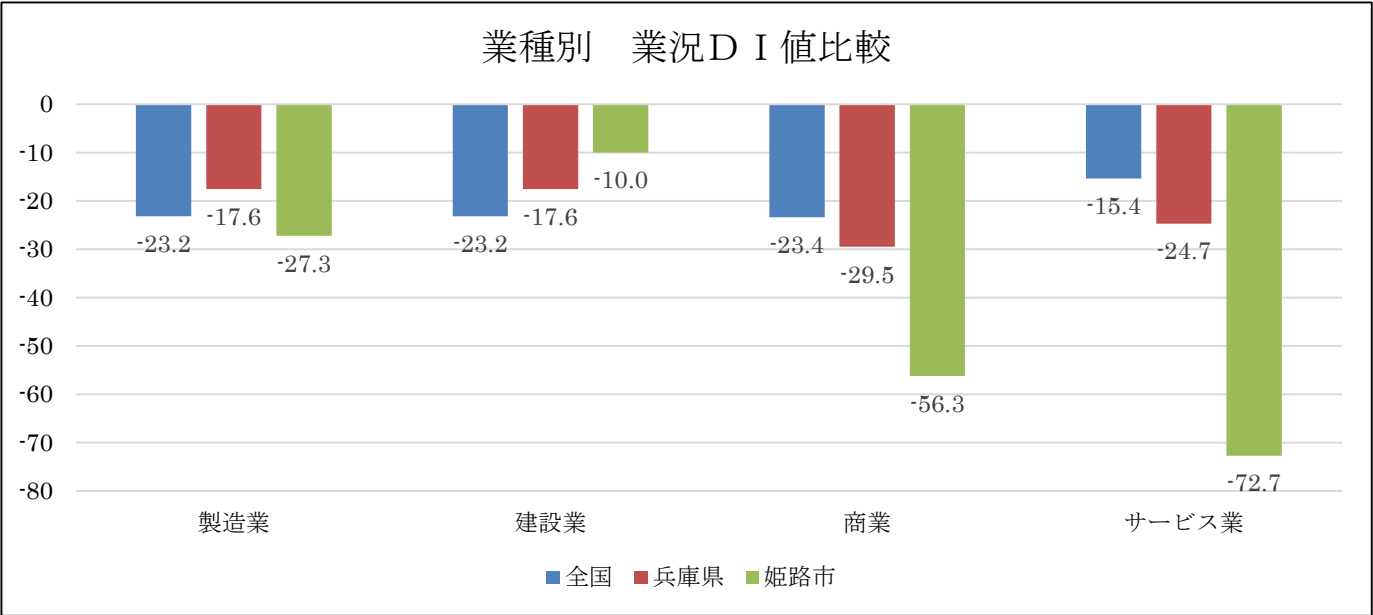
<業種別業況>

産業全体の景況は、売上額 DI がわずかに低下、資金繰り DI はわずかに改善、採算・業績 DI は小幅に改善した。エネルギー価格や原材料価格の高止まりは続いているものの、一時より緩和しつつあるとの声が見られた。また価格転嫁が一部で進みつつあるものの、仕入価格は依然として高水準で推移しており、先行きを慎重にみる声が多い。

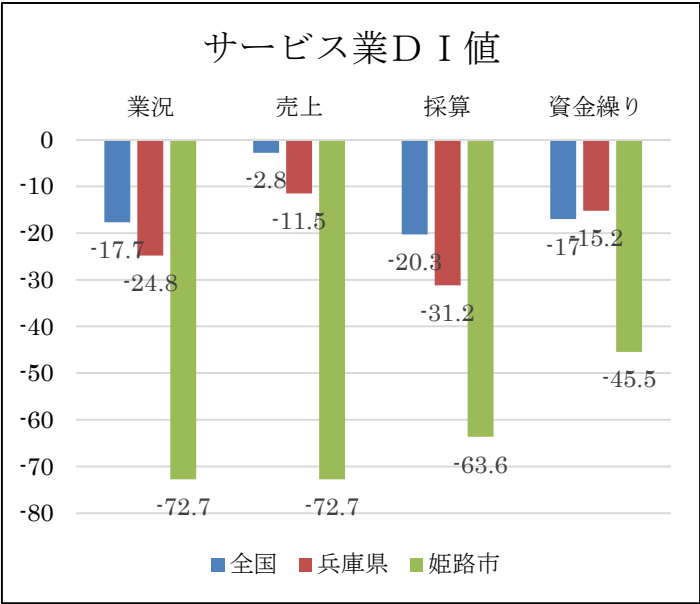
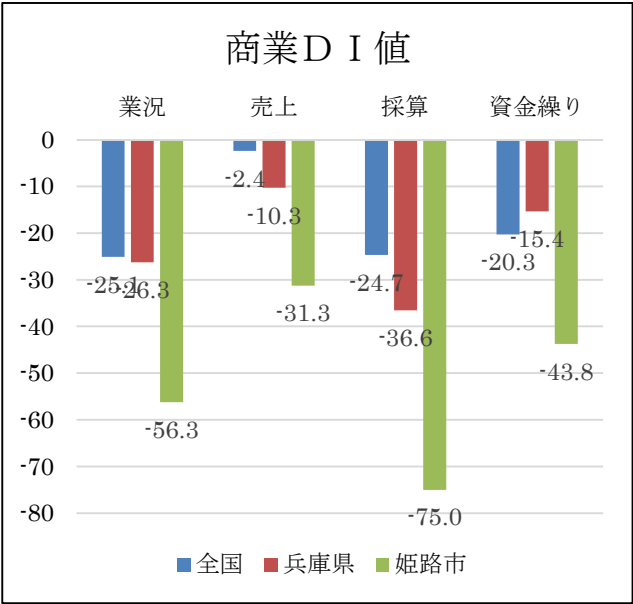
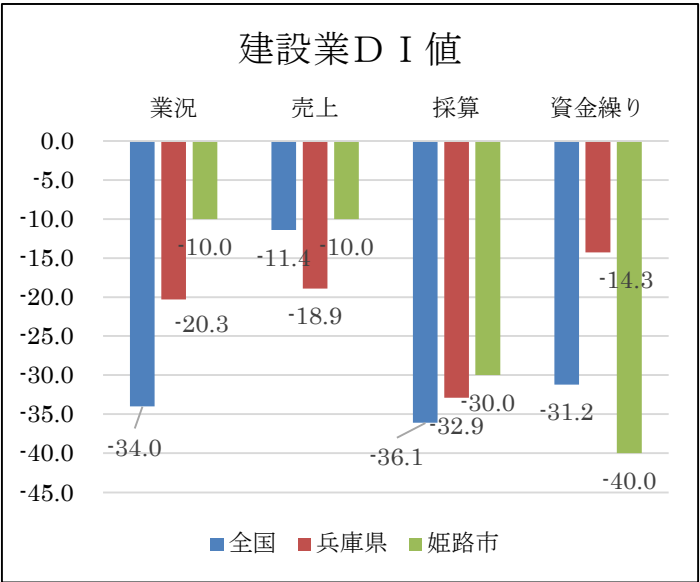
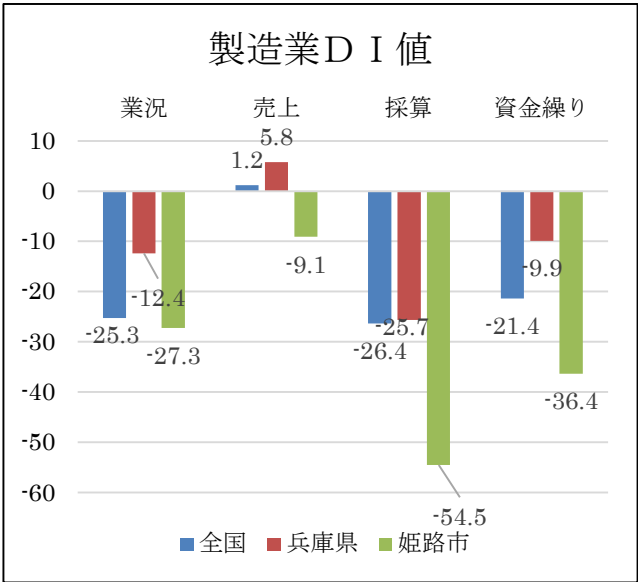
<総括コメント>

国内景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を引き続き注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

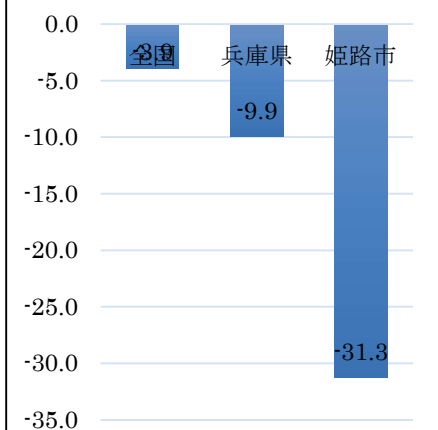
業種別 DI 比較グラフ



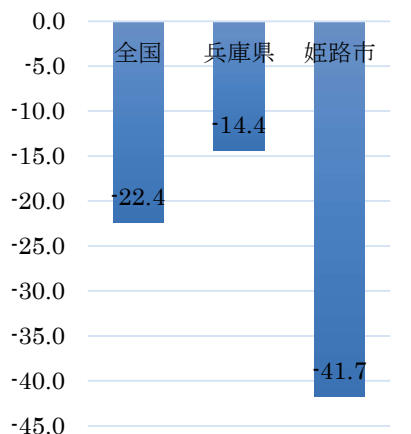
全業種 DI 比較



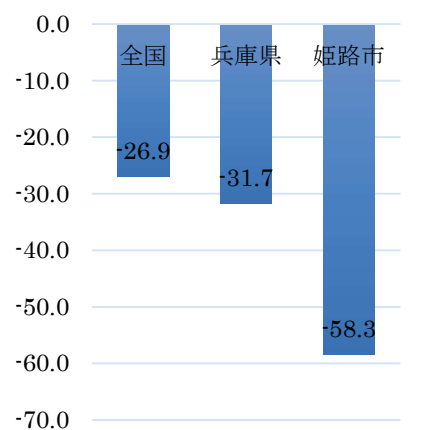
売上D I 値



資金繰りD I 値



採算D I 値



管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍

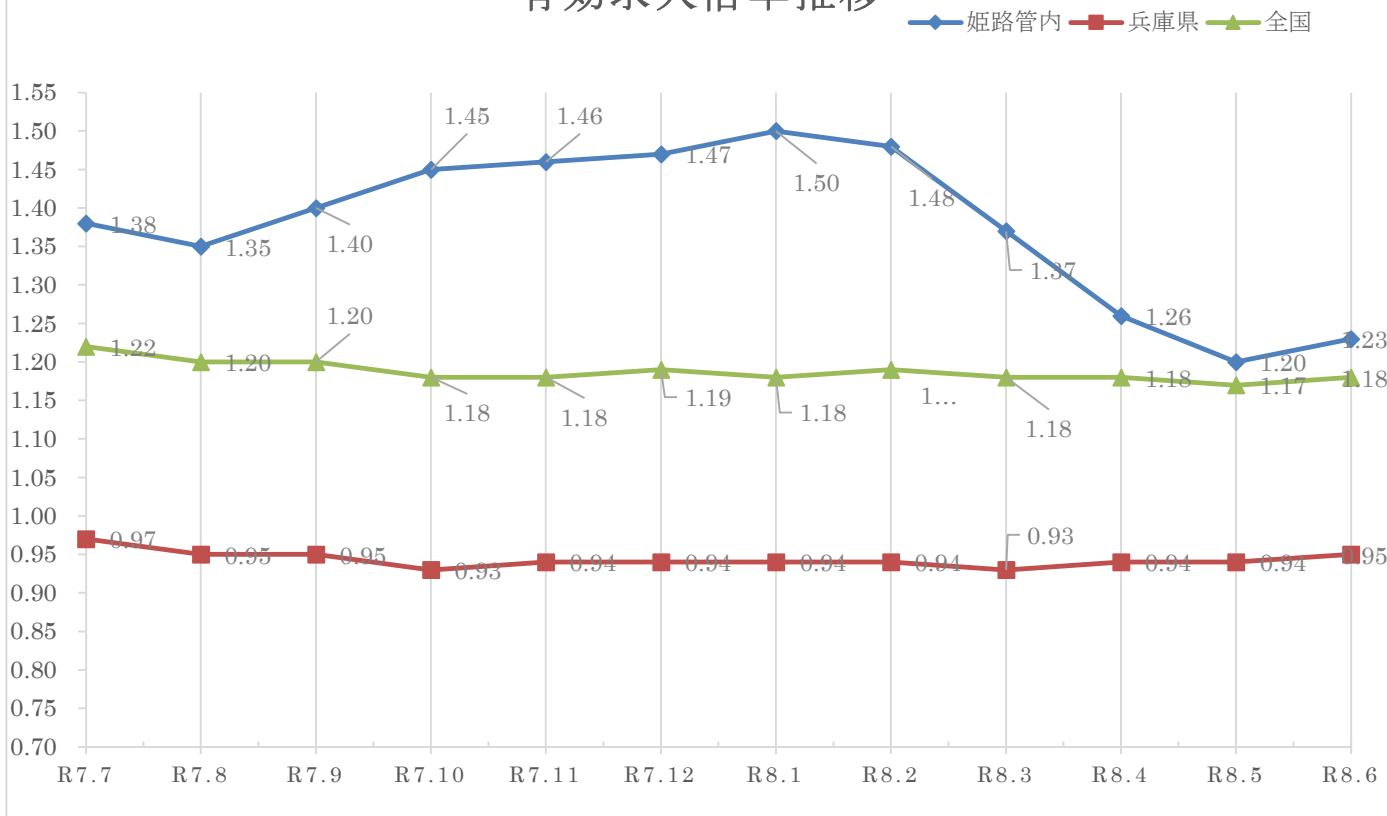
令和 8 年 6 月期の有効求人倍率は、全国 1.18 倍、兵庫県 0.95 倍、姫路管内 1.23 倍となっている。

令和 7 年 7 月から 1 年間の推移を見ると、全国と兵庫県においてはほぼ横ばい傾向が続いている。

姫路市は、令和 7 年 9 月以降の 1.4 倍台から 1.2 倍台への下降傾向であるが、全国・兵庫県と比較しても高い求人倍率を維持している。

兵庫労働局は、県内の雇用情勢判断を据え置き、「求職が求人を上回り、持ち直しの動きが弱まっている」との見方を 11 カ月連続で示した。同時に、「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」との指摘も維持した。

有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近 1 年間の有効求人倍率推移比較